

旧増毛山道を散策路に

札幌の開拓者の子孫ら調査

大正末期まで、留萌管内増毛町と右狩管内浜益村を結び、その後歴史に埋もれていた「旧増毛山道」を復旧させようと、札幌市内に住む山道開拓者の子孫を含む山岳会員が山道跡の調査を続けている。十一月までに全二十キロ余りに及ぶ調査を終える見込みで、関係者は「いずれ自然散策路として復活を」と意欲を見せている。



旧増毛山道は江戸末期の六〇(約)など暑寒別山系の一八五五―五七年、増毛、未開の山を越え、増毛町別浜益の場所請負人で、交易、刈に至る全長二二・五キロ、商の伊達林右衛門が松前藩、幅約一坪のなだらかな山の命を受け、私費を投じて道。かつてはコメ、塩や日用品の運搬路、旅の要路と三年がかりで切り開いた。

二年秋に海岸側を通る国道231号の歩古丹―大別刈間が開通した際、自宅に眠っていた古文書「北海道伊達家履歴」に記述されていた。調査は増毛側からスタート。古い地図を頼りに、ササやぶに赤いテープを巻きながら、道の痕跡が残る箇所をたどった。今年六月までの二年間に計十一回、やぶが茂る夏季を外し、比較的視界がきく春と秋に限り、入山している。

古い地図頼りに痕跡探る

20キロ、11月に完了

今後は十月末に調査を再開し、浜益側の約八キロの道跡や増毛側の「武好駅跡」跡などを確認し、十一月までに調査を終える。

浜益村幌を起点に、浜益して栄え、馬車が行き来し、達家履歴」に記述されている。だが、大正末期から使われた先祖の偉業に興味を持つた先づ、同山道の調査を始めようとしていた同村のこがね

今後は増毛町の山岳会や両町村などに呼び掛け、やぶの切り払いなど山道復旧に向けた動きを本格化する方針だ。

やぶをかき分け、旧増毛山道の道跡を調べる山岳会員 6月

伊達林右衛門の子孫で、札幌市中央区在住の自営業伊達東さん(左)が、一九九

伊達さんは「先祖が開いた道を踏みしめ、感慨がこみあげてきた」と語り、「地元の熱意でいずれは散策路として復活させたい」と夢を広げている。



調査は増毛側からスタート。古い地図を頼りに、ササやぶに赤いテープを巻きながら、道の痕跡が残る箇所をたどった。今年六月までの二年間に計十一回、やぶが茂る夏季を外し、比較的視界がきく春と秋に限り、入山している。



今年も雪解け水で美しい姿を現したペリカの滝。大嶋和敏さん撮影

雪解けの時期だけ 滝は現れる 増毛

【増毛】雪解けの今の季節にだけできる幻の滝「ペリカの滝」が今年も留萌管内増毛町に姿を現した。

増毛山岳会(近江章人会長)の大嶋和敏さん(四七)会社員、野上泰宜さん(四七)会社役員、村田勝義さん(四七)消防職員らの三人が、このほど写真に収めた。説明されている。水源は天同町岩尾の国道231号天狗岳(九四四坪)と推測されるが、普通の地図には記載されていない。

約一時間。険しい沢を登り新緑の中を進むと突然、荒々しい断崖(だんがい)の岩肌を走る落差六、七十メートルの滝が視界に飛び込む。乗って沖合に出ないと眺められない。雪解けが終ると水が枯れてしまわれ、見られるのは「破れる」の意。六月いっぱいまでという。



浜益村宇幌の幌神社山道と社殿 社殿右手側より山道に入る

↓ 林道

↓ 増毛山道 路跡



三等三角点“幌野”南 180m 附近の旧増毛山道と林道



増毛山道中
三等三角点'幌野.
H.307 m





増毛山道 (浜溢側より) H300m 附近 三等三角点 幌野. 上のポール



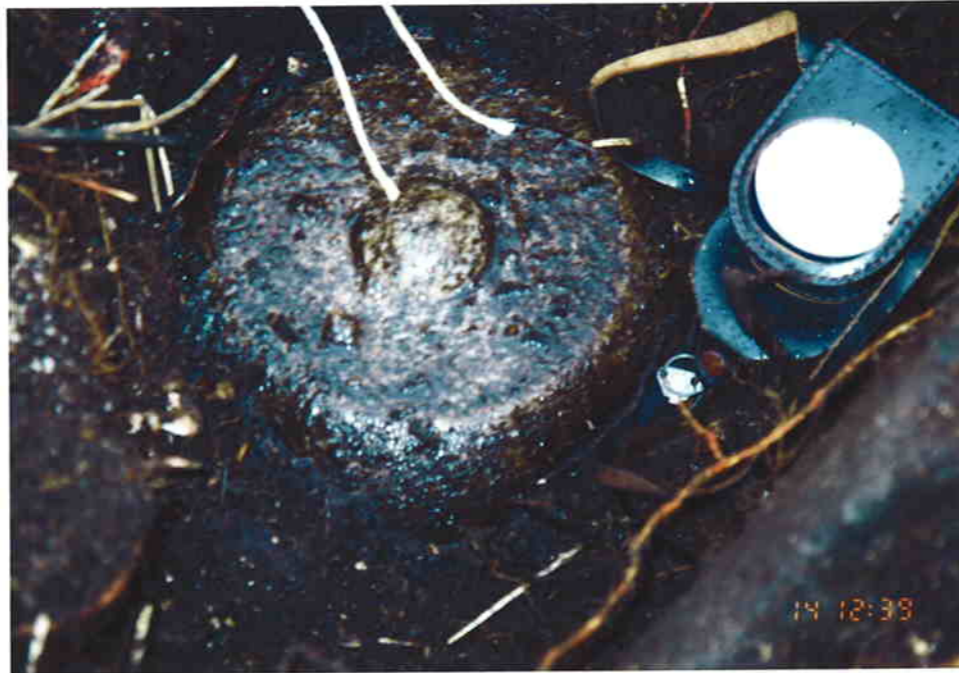
H300m 三等三角点 幌野. 横の
増毛山道



浜益側より. 浜益御殿へ向うH800^m附近 残雪の下は根曲リ竹



浜益側より. 浜益御殿へ向うH900^m附近. 目印を付ける 前島枝宮



汚れを落した水準点



山道 の水準点は 明治の測量官
高野良哉の手によって行はれた



腐養土. 30cm下に埋もれていた木線臭

地理院(道)児玉氏



発見を喜ぶ地理院の前島. 児玉氏
「面白かった」



道内の最高点をもつ水準点(高い方の代表点)を発見する事は
北海道地方測量部の 永年の願いであった。... 別海町の最低点も未発見
90cm



浪益御殿 H1037m 附近の
増毛山道





山道入口の標識向いに
津田屋会館あり





増毛町史. ^{かつて}増毛山道に建てられた延命地蔵を収めている 海音寺

